

## 今後の予定

### 【すくすくコホート三重】

**小学1年生**：秋に2回目の質問票調査を行います。すっかり学校に慣れた2学期の後半に、学校や家での様子をお伺いしたいと考えていますので、お忙しいところ恐縮ですが、ご協力をお願いいたします。2年生の夏に観察を予定しています。

**年長さん**：6歳の観察が年内一杯続きます。PCを使った課題を2種類、また利き手調査を行っており、ボールやラケット等を使って遊んでもらい、とても好評です。

**NICU**：冬に5歳の観察が始まります。PCを使った課題やお菓子も登場しますので、どうぞお楽しみに！また、3歳半までのデータと、6歳のグループの3歳半の時との比較をする予定です。結果が得られるには時間がかかると思いますが、どうかしばらくお待ちください。

### 【武庫川チャイルドスタディ】

武庫川チャイルドスタディでは、今年の11月より5歳の観察がスタートします。

この年齢は、幼児期の後期といわれる時期にあたり、これまでと違い、自分の思うところに行くことができたり、自分の思っていることを言葉で表現できるようになって、自己主張が強くなってきます。なかなか難しい年齢ですが、同時に個性が表れてきて楽しい時期でもあります。観察室でどんなふうにならぬかとお話しをしてくれるのか、スタッフ一同楽しみにしています。

### 【研究グループ全体】

「すくすくコホート研究」は乳児期から長期間にわたって、子どもたちの育ちを追いかけていく研究です。子どもたちの育ちの中には、いくつかの大きな節目があります。乳児期から児童期への大きな節目、それは小学校入学です。三重グループでは、今年20名のお子さまが小学校へ入学しました。

研究グループでは、今後協力していただいているみなさまに、学校生活についての調査を行い、幼児期から児童期への移行のようすについて聞き取りや観察を進めていく予定です。また、三重のNICUコホート、西宮の武庫川チャイルドスタディは、5歳の調査の準備中です。3歳半の調査から少しお時間があいておりますが、近くなりましたらまたご連絡させていただきます。どうぞよろしくをお願いいたします。今後、これまでの結果から分かってきたことを、分かりやすくみなさまにお知らせすることも計画しております。

### 編集後記

このニューズレターが届くころには暑さは和らいでいるでしょうか？おかげさまで、すくすくコホートニューズレター第2号を発行することができました。

すくすくコホート三重も武庫川チャイルドスタディも、それぞれに原稿を書いたにもかかわらず同じフレーズが出てきました。それは、みなさまのご協力がなければ研究を進めることはできませんでした、感謝しておりますというものです。今後も調査は続きます。引き続き、みなさまのご協力をお願いいたします。

本研究の推進にあたっては、三重県教育委員会、三重県健康福祉部、尾鷲市教育委員会、尾鷲総合病院、独立行政法人国立病院機構三重中央医療センター、西宮市教育委員会、西宮市健康福祉局、武庫川女子大学のご理解とご協力をいただいております。また、日本学術振興会の科学研究費補助金(課題番号21243039)を受けて進めています。

### 【すくすくコホート三重】

〒514-1101 三重県津市久居明神町 2158-5 三重中央医療センター 臨床研究部内  
TEL：059-259-1211(代)

### 【武庫川チャイルドスタディ】

〒663-8558 兵庫県西宮市池開町 6-46 武庫川女子大学 子ども発達科学研究センター  
TEL/FAX：0798-45-9880



平成23年度  
夏号

# すくすくコホート ニューズレター



すくすくコホート三重・武庫川チャイルドスタディ





## 査で何がわかるのでしょうか

これまで、みなさまにさまざまなアンケート調査をお願いしてまいりました。特に心理的な調査は、これを聞いて何がわかるのだろうか？という疑問を持たれる方も多いようです。このような疑問に少しでもお答えできればと思います。

### 1. みんなどう思っているのかな

私たちは、心の中でさまざまなことを考えています。このような心の中で起きていることは、他の人は知ることができません。

例えば、お友だちとひまわりの花を見ているような場面を想像してみてください。あなたはひまわりの花を見て「暖かい色だなあ」と感じたのでしょうか。でもその人もあなたと同じように感じているのかどうかはわかりません。自分以外の他の人がどのように感じているのかを知るためには、その人に聞いてみる必要があります。

さらに、同じひまわりについて、いろいろな人に「どんな色ですか？」と聞いていき、それを積み重ねることによって、多くの方がそのひまわりをどのように捉えているのかがよく分かってきます。100人の人のうち90人が暖かいと言うと、あなたの感じたことは多くの人と共通性を持っているということになります。

### 2. 見つけることに意味があるのです

私たちはお子さま1人1人の発達を、ともに歩みながら記録していきたいと考えてきました。私たちが取ったのは、同じことについて1人のお子さまの行動を何度も繰り返して聞き取っていくという方法です。4ヶ月、9ヶ月、1歳半…とつないでいくと、お子さまの発達のようすが、1つの軌跡として浮き上がってきます。

そして、たくさんのお子さまの歩みを積み重ねることで、ずっと先頭を進んでいく子どもたち、最初ゆっくりだったけれども、急激に追いついてくる子どもたち、といったいくつかの姿が見えてくるのが期待されます。

私たちは、これからも子どもたちの歩みを記録し、発達の様子を丁寧に示していきたいと考えています。今後ともご協力いただけますよう、よろしくお願いいたします。



## すくすくコホート三重・活動レポート

すくすくコホート三重では、6歳のお子さんの観察と新1年生のお子さんの就学後の質問票調査を実施しています。6歳の観察は138名の予定で、50名程の観察が終了(6月末現在)しました。4ヶ月から5歳までの6回の観察を終わった時点で、約75%の方に協力を続けていただいています。これはとても素晴らしい成績です。県外に引っ越した後も、わざわざ来てくださる方も複数いらっしゃいます。NICU出身のお子さんたちは修正3歳半の観察を6月に終了しました。修正4ヶ月から5回の観察を終了し、約90%の方に協力を続けていただいています。コホート研究では続けてご協力いただくことがとても重要ですので、いつも皆さまには感謝しています。

6歳の観察では利き手調査を実施しています。ボールやラケットなどの道具を使って遊び感覚で調査するので、お子さんはそれまでとは一変した笑顔で元気いっぱい遊んでくれます。帰り際にはお子さんの汗びっしょりの姿にお母さんもびっくり！(すみません(^\_^))

就学後調査は、1年生の間に2回実施します。ご自宅に質問票を郵送してご記入後、返送していただきます。直接、お会いできないのですが、お答えいただいた内容からお子さんの成長ぶりを感じさせていただいています。

NICU出身のお子さんは今年の冬から5歳の観察に入りますが、2歳半、3歳半の観察でも実施した「我慢できるかな～」という課題を5歳でも予定しています。一生懸命我慢している姿や我慢しようと思ったけど・・・など普段あまり見ることがない姿を見せてくれると思います。ぜひ楽しみに。



※掲載を承諾いただいた方のお写真を使わせていただいています。

## 研究統括からのご挨拶



河合優年

兵庫県西宮市で武庫川チャイルドスタディに参加頂いているお子さまたちは、この夏3歳半の観察を終了しました。お父さんやごきょうだいと一緒に、自転車で来てくださる方もたくさんいらっしゃいます。自分で歩けるようになってからは、寒い季節にはコートを着、暑い季節には帽子をかぶって、エッホエッホとやって来ます。武庫川女子大学の観察室は5階にあるのですが、観察が終わったあと、エレベーターで1階まで降りるのに、行き先階のボタンを自分で押そうとするお子さんもたくさんいます。心身ともに大きくなってきました。また、ご家族のご都合で西宮市から転出される方もいらっしゃいますが、その方々の一部は観察のためにわざわざ市外からやって来てくださいます。何年にも渡ってみなさまがお子さまとともに研究室に来てくださることに、スタッフ一同、感謝しております。

4ヶ月の頃から観察していると、お子さまの成長がまざまざと見えてきます。ベビーラックに固定されるのがいやで、ぐずぐずしていたお子さんが、観察前の説明を椅子に座ってじっと待つことができるようになってきました。1歳までの乳児期が自分を取り巻く環境との関係を、自分の快・不快を中心として作り出していたのに対して、1歳から5・6歳までの幼児期では、言葉の獲得や移動能力の獲得など、自分の快・不快をさまざまな方法で解消することができるようになります。さらに「おねえちゃんになったね」とか「さすがおにいちゃんだね」などと、おだてられると結構うれしそうに胸をはるようになります。これは、喜怒哀楽という基本的な感情に、自慢や恥ずかしさなど、社会的な存在である人間だけが持っている情動がそなわってきたのです。

西宮と三重で行っている子ども研究は、調査内容や観察内容には同じ項目が多く含まれています。居住地や生まれた年度が違っているからこそ見えてくる、子どもの発達の共通性が明らかになればと思っています。

## 武庫川チャイルドスタディ

(河合・難波)

今年新たに、武庫川チャイルドスタディの研究メンバーとして石川道子先生が加わりました。

石川先生は、これまでも小児科医の視点からアドバイザーとして参加していただいておりますが、この4月からは当大学の子ども研究センター・教授として一緒に研究を進めることになりました。特別な支援を必要とする子どもの研究が専門ですので、先生が加わったことにより、子どもの発達についてより広い視点からの検討が可能となりました。



山本初実



山川紀子



三重では、今春、20名の方が小学校に入学されました。赤ちゃんだったみんながランドセルを背負って登校していると思うと、スタッフ一同感無量です。来年の夏にお会いするのが待ち遠しいです。6歳のお子さんたちは前年のことを覚えていて、期待して来てくれます。観察も楽しみ、笑顔で2年後の再会を約束してくれます。NICUコホートは3歳半の観察を終了しました。いろんな課題にチャレンジし、できると誇らしげな様子はほほえましく、1人1人の成長を実感し、大人たちが元気をもらいました。回を重ねるにつれてご家族の方との交流も深まり、スタッフ一同みなさまにお会いできるのをとても楽しみにしています。これからもどうぞご協力をお願いいたします。

## すくすくコホート三重

(山本・山川)